



# SENSHOJI YUKARI NEWSLETTER

1994-2023

ゆかり通信

VOL. 309

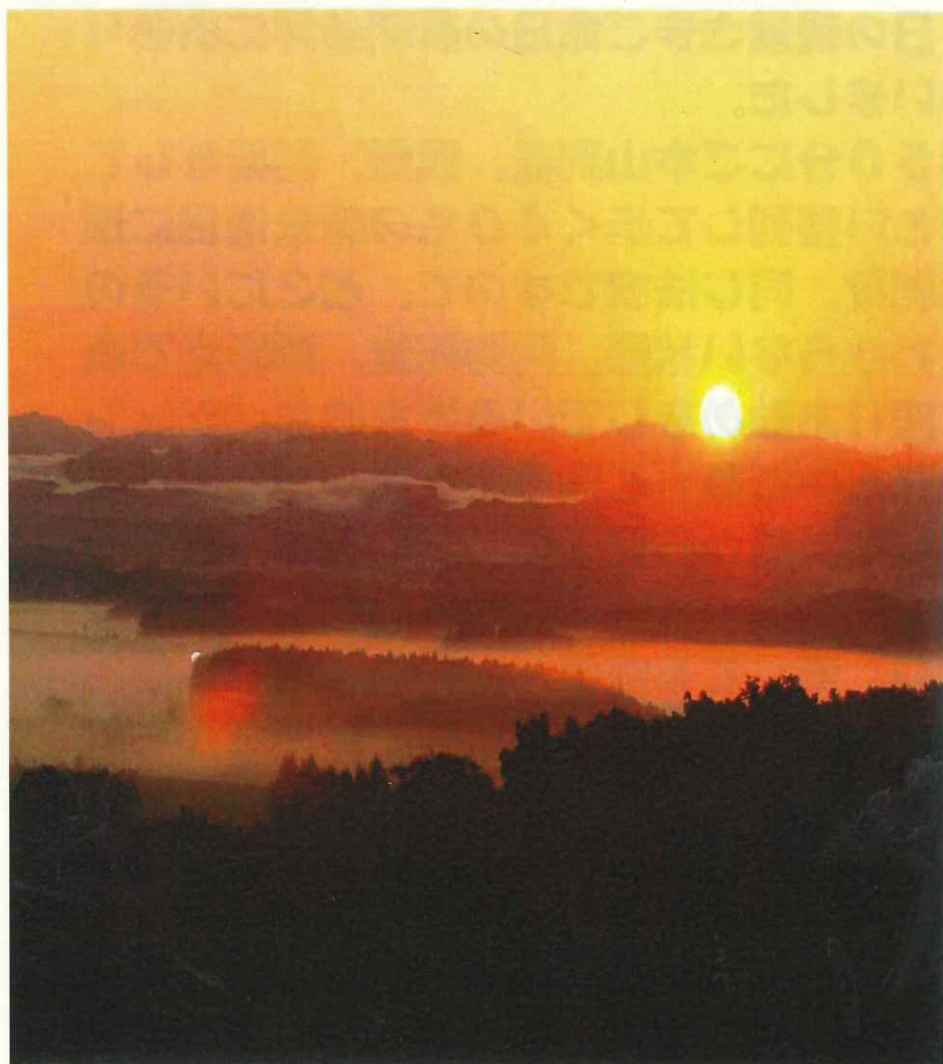
令和 5 年 10 月

北海道千歳市清水町1-14 鶴竈山 千正寺

TEL: 0123-23-2442 FAX: 0123-24-9883

ホームページ <http://sensho-ji.net/> フェイスブック @Senshoji

## 2023年千正寺カレンダー 10月の言葉



早朝の絶景/レットの丘

与えても、  
減らぬ親切、  
残る徳

「与えても、減らぬ親切 残る徳」お寺の掲示板で、よく見かける言葉です。

この言葉は、仏教の根本的な教え「諸法無我（世の中のすべてのものごとは、つながりあっていて、個として独立しているものは一つもない）」や、大乘仏教の修行「六波羅蜜」の中の一つ「布施」の心を分り易く表現した言葉です。「目の前の利益にばかり捉われて、欲張りな行動や、物惜しみをしていたら、結局、仕合せにはなれませんよ」という戒めですね。

ご法話の中で、よく使われる「三尺三寸箸」というたとえ話が有ります。

ある日、地獄と極楽を見学に行った男がいました。最初に地獄に行くと、ちょうど食事の時間。テーブルには罪人たちがずらりと並んでいます。地獄なのですが、そこには豪華な料理が揃っています。にもかかわらず、罪人たちはガリガリに痩せています。疑問に思いよく見ると、彼らの手にはとても長い箸が握られていました。恐らく1メートル以上（3尺3寸）の長さでしょう。

罪人たちはその長い箸を必死に動かしてご馳走を食べようとしますが、まともに口に入れることができません。イライラし、怒り出し、怒鳴り合い、隣の罪人がつまんだ料理を奪おうとし…皆が必死になって自分で食べようとしますがうまく食べることができず、醜い争いが続くばかりです。

次に極楽に向かいました。地獄と同様に食事の時間で、極楽往生した人達が同じようにテーブルに座っていて、料理もやはり豪華に揃っていました。

その人達の様子は皆健康そうで穏やかに見えました。そして、持っている箸は地獄と同じ長い箸でした。食事が始まると、極楽の人達はそれぞれが長い箸で料理をつまみ、自分で食べようとするのではなく「どうぞ」と言って、自分の向こう側にいる人に食べさせ始めました。食べさせてもらった相手は「ありがとう」とお礼を言って、今度はその相手に食べさせてあげるのです。極楽ではこうして、皆がきちんと食事を取ることができていたのです。お金や物が、どれだけ潤沢に有っても、皆で奪い合えば、足りません。「自分さえよければ、他人はどうなってもいい」という心では、結局皆共倒れしてしまいます。全てのは、繋がりが合っているからなんですね。

「情けは人のためならず」と、人様に親切な行いを心がけていると、巡り巡って、やがてわが身にその報いは帰ってきます。「人に優しくして欲しいなら、まず人に優しくする」そんな「徳の高い」人々がどんどん増えていけば、地域、社会、そしてこの世はどんどん「徳の高い」世の中になって行くでしょう(^人^)南無阿弥陀仏…

(文：桜庭尚吾法務員)